

ルーム・トゥ・リードが創立 20 周年を迎え、2020 年からの新たな 5 年間の戦略計画期間が始まるにあたり、リサーチ・モニタリング・評価（RM&E）チームは、プログラムから学び、インパクトを高め、ソートリーダーシップを拡大するために、どのようにして根拠（エビデンス）を構築していくかを検討してきました。また、2020 年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックが発生した特別な年であり、私達のプログラムと RM&E 活動の両方を転換させるために、比類のないイノベーションが必要でした。本報告書では、私達の RM&E 活動のハイライト、プログラムの成果、ソートリーダーシップ活動、COVID-19 への対応を紹介します。

識字教育プログラムでは、**子ども達の読解力**に対するプログラムの影響を厳密に評価し続け、大きなプラスの改善が見られました。また、読解力データの分析を拡大し、**学習成果の平等**という強いレンズを使って、より深く、よりニュアンスのあるインパクトを見ています。**バングラデシュのロヒンギャ難民キャンプ**で子ども達の読解力と算数力を測定した私達の活動は、10 万人の子ども達への介入の設計に重要なデータを提供しました。また、私達は識字教育のための 2 つの重要な指標、図書室や書籍出版の有効性を評価するための「**代替の読解力**」と「**新しい読書習慣**」を開発しました。

女子教育プログラムでは、ルーム・トゥ・リードは**ライフスキル評価**を様々な方法で進化させました。ジェンダーの態度に関する測定項目の拡大、金融リテラシーと就職希望の領域の追加、**男の子向けの評価**の適応などです。また、インドの政府系全寮制学校にライフスキル・カリキュラムをスケールアップするための学生レベルとシステムレベルの両方の成果を測定する**大規模な影響評価**を設計し、開始しました。

2020 年には、幅広い研究発表を行い、新しいテクニカル・ディスカッション・シリーズ「RM&E in-progress」を立ち上げるなど、私たちは**ソートリーダーシップとセクターの関与**を拡大しました。また、**COVID-19 パンデミックに対応するために**、RM&E 活動の多くを迅速に再設計し、プログラムの実施、各国の状況、学校閉鎖中に支援している子ども達の経験に関する重要なデータを提供しました。本報告書では、効率性と適時性の重視した活動、学校閉鎖に対応した新たなプログラムの柱となる重点活動、そしてこれまでの活動実績について説明しています。

ルーム・トゥ・リードは、このような前例のない時代にプログラムの激変と不確実性があったにもかかわらず、2020 年にご支援いただきました支援者の皆様に心より感謝申し上げます。ルーム・トゥ・リードの広範な RM&E プロジェクトの報告書をお楽しみいただければ幸いです。今後も引き続き協力し合い、世界中の何百万人もの子ども達のために識字とジェンダー平等を推進していきたいと考えています。



識字教育プログラム

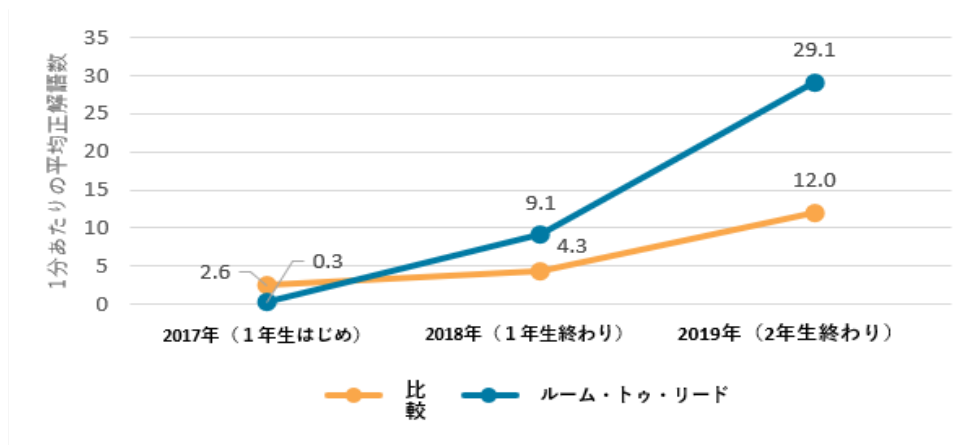
子どもの読解力の向上が続く

ルーム・トゥ・リードは、識字教育プログラムが生徒の読解力に与えた影響を評価し、積極的な支援を行った後の数年間で、改善された読解力がどの程度維持されているかを理解することに努めています。これを達成するために、ルーム・トゥ・リードでは、2年間の影響評価をはじめとする様々な評価手法を活用しています。2年間の影響評価では、ルーム・トゥ・リードの支援校と同様の比較校の生徒のスキルを経時的に評価しています。この評価デザインにより、スキルの変化だけでなく、その変化がルーム・トゥ・リードのプログラムに起因するものかどうかを把握することができます。この評価デザインは、識字教育プログラムが新しい言語や地域で初めて導入された時、デザインに大きな変更があった時、または前回の影響評価結果から3年が経過した時に利用します。

2019年には計3つの影響評価を終了しました。：インド（2つ）ネパール（1つ） 3つの評価はいずれも強い結果を示し、ルーム・トゥ・リードの支援校の生徒のスキルは、2年間の介入の後、比較校の生徒を上回っていました。

ネパールでは、ルーム・トゥ・リードの支援を受けた30校と支援を行っていない比較校30校の536人の生徒の¹読解力を評価しました。下の図1と2は、1年生の初めから2年生の終わりまでの生徒の音読の流暢さと理解力の軌跡を強調したものです。評価によると、2年生の終わりには、ルーム・トゥ・リードが支援を行っている学校の生徒は、比較校の生徒の2倍以上のペースで読み、平均理解力のスコアは2倍近くになっていることがわかりました。これは、プログラムの効果の大きさを反映しており、口頭読解力の標準偏差は1.8、理解力の標準偏差は1.5²で、どちらも非常に大きな効果さと考えられます。

図1：ネパールの音読流暢性³

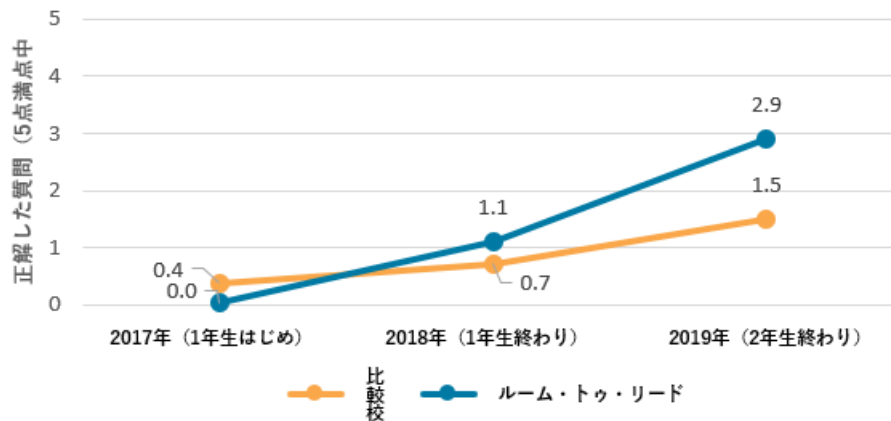


¹測定される読解力には、文字音識別、非単語読解、音読流暢性、読解力、文章の書き取りなどがあります。

²効果量は、支援校と比較校の間の差の大きさを推定する。教育プログラムでは、効果量0.2-0.25は小さな効果量、0.4-0.6は中程度の効果量、0.8は大きな効果量と考えられています。0.8以上の効果量は稀であり、非常に効果的なプログラムであることを示しています。

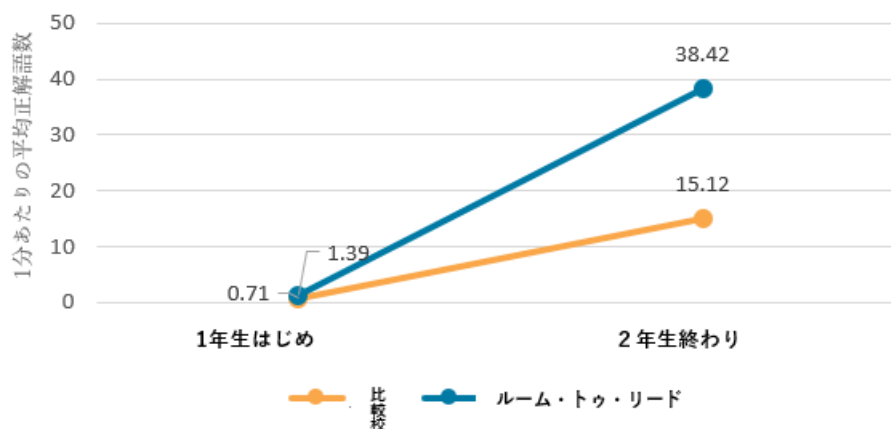
³比較校の子ども達と比較して、2年間で読解力（特に音読の流暢さと理解力）が統計的に有意に向上した ($p < 0.001$)。

図2：ネパールの読解力



インドでの2つの影響評価では、ルーム・トゥ・リードが直接プログラムを実施する「デモンストレーション・アプローチ」と、ルーム・トゥ・リードがプログラムを実施する政府パートナーに技術支援とコーチングを提供する「パートナーシップ・アプローチ」の2つの異なる実施モデルを評価しました。このモデルは、ルーム・トゥ・リードのスケール戦略の重要な部分であり、ルーム・トゥ・リードのモデルを大規模かつ持続可能な方法で実装するための政府システムの能力を構築するために取り組んでいます。「支援校」と「パートナーシップ校」の両方で、比較校と比較して、生徒の読解力が統計学的に有意に向上しました。

図3：インドの音読流暢性



ルーム・トゥ・リードが直接プログラムを実施する「デモンストレーション・アプローチ」の効果評価では、ルーム・トゥ・リードの生徒は平均して1分間に38の正しい単語を読んでいたのに対し、比較校の生徒は2年生の終わりには1分間に15の正しい単語を読んでいたことが分かりました（図3）。同様の結果が読解力のサブタスクでも見られ、ルーム・トゥ・リードの生徒は比較校の生徒よりも平均して1つ多くの質問に正解していました。効果の大きさはそれぞれ1.9と1.7であり、非常に大きな改善であると考えられます。詳細は以下の表1を参照してください。

「パートナーシップ・アプローチ」の評価では、2年生の終わりに、ルーム・トゥ・リードの介入前と介入後の生徒のサンプルを評価しました（反復横断計画）。2年後、ルーム・トゥ・リードの支援を受けた学校は、音読流暢さの平均スコアが28.8語/分であるのに対し、比較校では19.2語/分で、比較校を大幅に上回っていました。読解力についても、以下の表2に示すように、ルーム・トゥ・リード支援校の方が高い伸びを示しました。

表1：インド2年間の影響評価-デモンストレーション・アプローチ

サブタスク	グループ	ベースライン (2017)		エンドライン (2019) ⁴		
		サンプル校数	平均スコア	サンプル校数	平均スコア	効果の大きさ
口頭読解力 1分間の正しい単語数	ルーム・トゥ・リード支援校	386	1.4	384	38.4***	1.9
	比較校	358	0.7	280	15.1	
読解力 5問中正解した問の数	ルーム・トゥ・リード支援校	386	0.1	384	2.3***	1.7
	比較校	358	0.1	280	1.3	

表2：インドの2年間の影響評価-パートナーシップ・アプローチ

サブタスク	グループ	ベースライン (2017)		エンドライン (2019)		
		サンプル校数	平均スコア	サンプル校数	平均スコア	効果の大きさ
口頭読解力 1分間の正しい単語数	ルーム・トゥ・リード支援校	396	19.0	399	28.8**	1.2
	比較校	424	14.5	315	19.2	
読解力 正解した問の数	ルーム・トゥ・リード支援校	396	1.3	399	1.9	0.5
	比較校	424	0.9	315	1.4	

結論として、ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムの介入は、様々な文脈で生徒の読解力に大きなプラスの影響を一貫して示しています。このような結果を受けて、2019年、ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムは、グローバル開発センターの「Learning @ Scale」研究イニシアチブから「規模効果が高い」と評価されました。ビル&メリнда・ゲイツ財団の資金提供を受けたこの研究イニシアチブは、開発途上国で大規模に運営されている低学年の読み聞かせプログラムの中から、学習の改善に意義のあるプログラムを特定したものです。調査チームは世界各地で調査を行い、インドで実施されているルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムを含む8つのプログラムを選定しました。

⁴プロジェクト群と比較群の差の統計的有意性の凡例。* p < 0.05、** p < 0.01、*** p < 0.001

学習成果の平等性の調査

支援校と比較校を比較したデータから、ルーム・トゥ・リードが読解力にプラスの影響を与えていることが分かっています。上のセクションで実証されているように、ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムは、多くの国で平均的な音読流暢さと読解力のスコアを一貫して向上させています。標準偏差わずか 0.25 のプログラム効果が効果的なプログラムであることを示すと考えられており、効果の大きさが標準偏差 0.8 を超えることが有望で珍しいとされている分野では、これらの結果は例外的であり、すべての子どもが低学年で読み方を学べるようにすることにに向けて取り組んでいるため、心強いものです。

しかし、**学習成果の平等性**についてはどうなのでしょう？ ルーム・トゥ・リードのプログラムは、分布の上位を移動させるだけで平均点を向上させているのでしょうか、それとも分布の下位にいる生徒が平等に向上しているのでしょうか。言い換えれば、私達は、読解力の高い生徒が読解力を向上させ、読解力の低い生徒が苦戦を続けている間に、読解力の高い生徒が読解力を向上させているだけなのでしょう？ また、結果の平等性を評価し、伝えるためには、どのような分析方法があるのでしょうか？

平均点、ゼロ点、効果量、分布曲線などの典型的な読解力評価の分析を検討した後、経済学者が所得の平等性の分析に使用している確立された統計手法、すなわち**ジニ指数**⁵を検討しました。ジニ指数は、人口全体の富や所得分布の平等性を測定するために、経済学者によって世界的に使用されています。例えば、「国の上位 1%が富の 50%を占めている」というような表現では、ジニ指数が言及されています。完全に平等な世界では、ジニ指数は 0 であり、すべての富が単一の世帯に集中していた場合（完全な不平等）、ジニ指数は 100 になります。したがって、ジニ指数が低いほど、資源の分配が公平に行われていることになります。識字教育プログラムのケースでは、学習の成果、より具体的には、誰が「学習の富」のどの部分を所有しているのか、そして「学習の富」はどのように公平に分配されているのかについて考えています。

この研究を進めるために、バングラデシュ、ラオス、南アフリカで実施されたインパクト評価の読解力データを用いて、ルーム・トゥ・リードの支援を受けていない学校と比較して、本プログラムの**識字教育プログラムの成果のジニ指数を決定するための研究を実施しました**。その結果、ルーム・トゥ・リードの支援を受けていない学校と比較して、**本プログラムが学習成果の平等性を大きく向上させている**ことが分かりました。

下の**図 4** はラオスの例示的な結果を示しており、エンドライン（介入後 2 年間）の時点で、ルーム・トゥ・リードの学校の平均ジニ指数は 35 であり、比較校のジニ指数が 67 の学校と比較して格段に平等であることが分かります。学習の豊かさのシェアに関しては、エンドラインでは、ルーム・トゥ・リードの生徒の下位 50%が読解力の 24%を占めているのに対し、比較校の生徒の下位 50%は読解力の 0%を占めていました。

⁵また、ローレンツ曲線、累積分布、パーセントイル株など、経済学の分野で利用されている他の統計的手法も適用しましたが、その結果は近日中にワーキングペーパーで報告します。

図 4: ラオスの口頭読解流暢性スコアの四分位カテゴリー別シェア - エンドライン評価

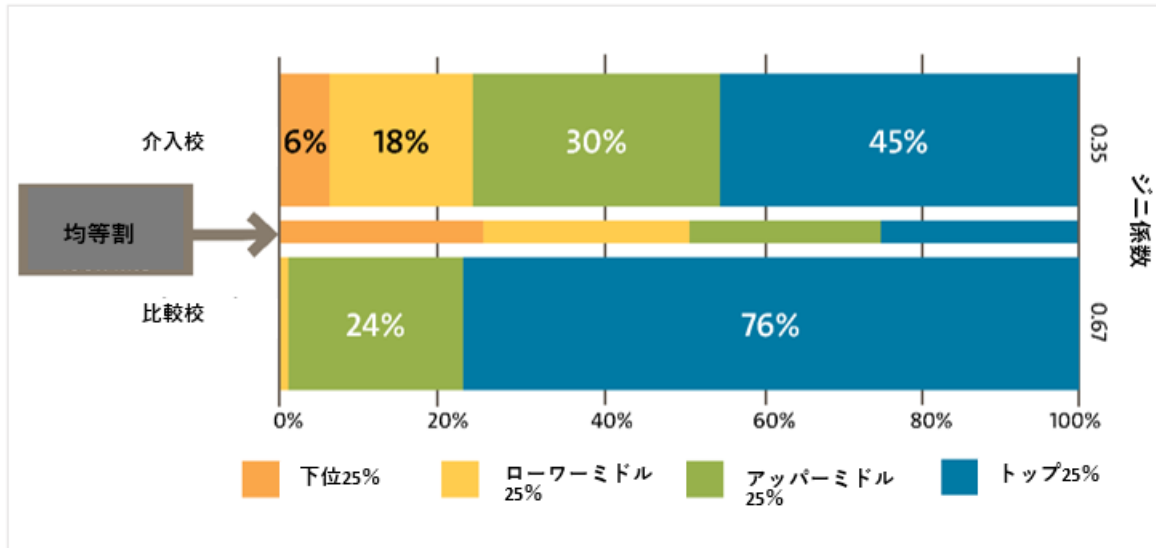


表 3 は、バングラデシュ、ラオス、南アフリカでの最近の評価から、ルーム・トゥ・リード支援校と比較校の最下位 25%と 50%の生徒の学習の豊かさの割合をまとめたものです。これらの結果から、ルーム・トゥ・リード識字教育プログラムが、平均的な読解力のスコアだけでなく、バングラデシュとラオスでは下位 25%の生徒のスコア、3 カ国すべてで下位 50%の生徒のスコアも改善していることが明らかになりました。

表 3 : 学習の富 (音読流暢度スコア) のシェア

学校	ボトム 25	違い	ボトム 50	違い
バングラデシュのエンドライン評価データ (2018)				
ルーム・トゥ・リード支援校	9.2%	↑ 4.2x	28.3%	↑ 1.7x
比較校	2.2%		17.1%	
ラオスのエンドラインの評価データ (2017 年)				
ルーム・トゥ・リード支援校	6.3%	↑ 31.6x	24.2%	↑ 29.8x
比較校	0.2%		0.8%	
南アフリカ エンドラインの評価データ (2017)				
ルーム・トゥ・リード支援学校	0.0%	● 0.0x	13.3%	↑ 3.9x
比較校	0.0%		3.4%	

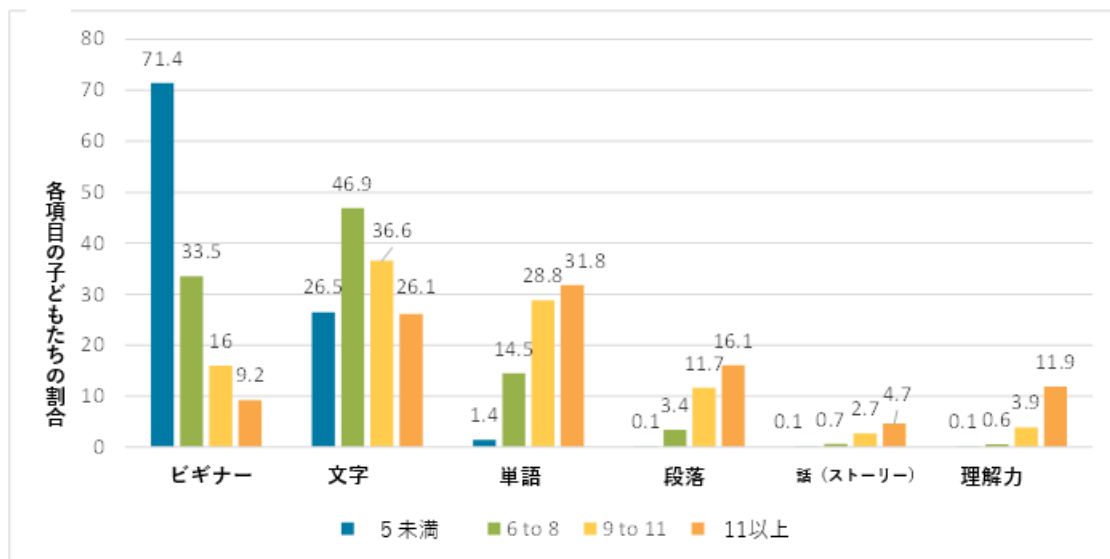
これらの分析に加えて、社会経済的地位、母国語、その他の背景特性などの変数が学習成果の平等にどのような影響を与えるかについても調査を続けています。そして、これらの結果に勇気づけられる一方で、全体的に高い読解力という形で、生徒が利用できる「学習の豊かさ」の総量を拡大し、学習成果の平等性をさらに高めるために努力する必要があると考えています。

ロヒンギャ難民キャンプにおけるベースラインの識字能力と計算能力の確立

2017 年以降、100 万人以上のロヒンギャがミャンマーを逃れて**バングラデシュ**に避難しており、コックスバザール地区では 85 万人以上の難民が様々なキャンプに収容されています。⁶これらの難民の 60% 近くが子どもであり、その多くはバングラデシュへの避難前も避難後も、正式な教育を受けていません。この深刻な危機に直面し、バングラデシュ政府と教育セクターのパートナーが協力して、難民キャンプの子ども達に基礎教育を提供しています。ルーム・トゥ・リードは、これらのパートナーの一つとして、ユニセフからの資金援助を受けて、18 万人以上の子ども達の識字能力と計算能力の⁷評価を主導してきました。現地のパートナーや政府と協力して、ルーム・トゥ・リードのチームは評価ツールを開発し、試験的に実施し、評価を実施する教師のトレーニングを主導し、データ収集を監督し、結果を分析して報告しました。

図 5 では、ベースラインのデータから、難民の子ども達の識字能力と計算能力のレベルが非常に低いことが明らかになっています。例えば、9 歳から 11 歳までの子どもの 81.4% が「単語」レベルの読解力しか達成しておらず、母国語の短い段落を十分に読めなかったことを示しています。11 歳以上の子どもでは、67.1% しか「単語」のレベルに達していませんでした。また、低年齢の子ども達は識字能力を身につけるために必要な基礎的なスキルを身につけておらず、6 歳から 8 歳の子どもの 80% 以上が「文字」レベルの読解力しか身につけておらず、学年レベルの単語を十分に読むことができませんでした。

図 5：ベースライン時の年齢別ロヒンギャ難民の識字能力分布



これらの読解力のデータは、子ども達の識字能力と計算能力の発達をサポートするために、レベルの高いカリキュラムを設計するために活用されています。2021 年には、教育介入の結果としての子どもの学習の変化を測定するためのフォローアップ評価を予定しています。⁸

⁶国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、2019 年

⁷識字能力評価では、ミャンマー語と英語の両方で、文字認識、なじみのある単語の読み、段落の読み、物語の読み、理解問題を測定しました。数字の評価では、数字の認識、足し算、引き算、掛け算、割り算の課題を言語で行いました。

⁸新型コロナウイルス感染症の制限があるため、個人でのデータ収集の実現可能性は未定。

読解力の代替指標

過去 10 年間、低所得国では、生徒の読解力と読解力を測定する方法として、生徒が 4~5 文の文章を声に出して読み、その文章に対応する 5 つの質問に答えるという方法が一般的になってきました。生徒が文章を正確に読んだ率と正解した質問の割合を用いて、音読流暢性と理解力が測定されます。

これらの評価は、過去 10 年間に低所得国の低学年の読解状況について貴重な情報を提供してきましたが、これらの測定、特に 5 問の問題を用いた読解問題の信頼性と適切性については疑問が残ります。このアプローチに対する批判には、この課題が理解力をどの程度分離しているか、この課題が明示的に測定されていない他のスキル（例えば、想起力や記憶力）に依存しているかどうかといった疑問が含まれています。さらに、明確で信頼性が高く、適切にレベル分けされた文章や問題集を開発することは、長年の課題であり、結果の解釈や使用方法が不確かなものになっています。

これらの問題とルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムの効果を確実に測定することの重要性を考慮して、私達は、「文選択」と呼ばれる代替的な理解度測定法を 10 カ国語で開発し、試験的に実施しました。文章選択課題では、子ども達に 10 組の文を読み、それぞれの組の中のどの文が正しいかを判断させます。例えば、「鳥が空を飛ぶ」と「ヤギが空を飛ぶ」のどちらが正しいかを判断するように求められます。追加の例は表 4 を参照してください。

表 4：文の選択例

犬は卵を産みます。	鳥は卵を産みます。
ニワトリは鉛筆を持っています。	ニワトリには羽があります。
6 は形です。	6 は数字です。
家には扉があります。	ネズミには扉があります。
サッカーはゲームです。	サッカーは食事です。
男は歩けます。	机は歩くことができます。
私達は紙を食べます	私達は食べ物を食べます。
ハチがパンを作ります。	ミツバチはハチミツを作ります。
車にはタイヤがあります。	ボートにはタイヤがあります。
ボールは色です。	赤は色です。

ルーム・トゥ・リードの試験では、このタスクが信頼できる結果を提供するかどうか、またその結果が従来の 5 問セット理解度測定とどの程度相関しているかを判断することを目的としています。これらの試験結果は非常に有望なものでした。従来の理解度タスクと文選択タスクの間には、すべての 10 言語と 48 のデータポイントにおいて、一貫して正の、強力で統計的に有意な相関関係が見られました。今後は、この指標を読解力の評価に組み込む予定です。

読書習慣を測る新戦略

積極的で一貫した読書習慣を身につけることは、読書のスキルを身につけ、生涯自立した読書家になるための鍵となります。ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムでは、指導と図書室での介入を通して、スキルの向上と読書の習慣化の両方に焦点を当てています。RM&E の観点から、私達は読書スキル評価を補完するために、読書習慣を測定するための新しい戦略に取り組んできました。この取り組みを始めたとき、「読書習慣」は簡単に

聞こえるかもしれませんが、かなり複雑な概念であることに気づきました。これには、読書の行動や習慣だけでなく、読書に対する態度（読書へのモチベーションの源を含む）も含まれます。特に回答者の年齢を考えると、信頼できるデータを確実に収集するためには、生徒だけでなく、教師や司書にも調査を行う必要があると判断しました。

さまざまな「ドメイン」や測定のカテゴリーを考える中で、私達は、**自立的な読書習慣、読書の喜び、読書意欲**を調査の主要なカテゴリーとして決定しました。さらに、読書の習慣と読書スキルの関係を調べるために、ミニ読書スキル評価を加えました。これは、質の高い現地語の教材を生徒に提供するための重要なデータポイントです。これは、教育成果の低さと現地語教材の不足により、歴史的に読書文化が存在しない場所で、読書文化を促進しようとする多くの国レベルの取り組みを支援するものです。調査質問の例については、**表 5**を参照ください。

表 5 読書の習慣測定調査の質問項目

自主的な読書の実践	
先週は、一人で何回くらい読みましたか？	毎日
先週は、学校や教室の図書室から好きな本を借りて、自宅は何回くらい読みましたか？	3回か4回 一度か二度 全然
読書の喜び	
自宅で楽しく読書をしてみていかがですか？	非常に幸せ
図書室で本を音読する時の気分はどうですか？	中程度の幸せ
授業中に先生が声を出して読んでいるのを見てどう思いますか？	中程度に不満 非常に不幸 回答なし/わからない
読書のモチベーション	
物語や難しい言葉が出てくる本を読むのが好きですか？	沢山
先生に言われた時しか読まないのですか？	何となく/何となく 少し
新しい情報を学ぶのが好きだから読むのですか？	全然 回答なし/わからない

この新しい読書習慣測定の最初のパイロットは、" The Influence of Libraries in Improving Habit of Reading and Literacy Outcomes - An Exploratory Study of Room to Read's Library Program in Sri Lanka (読書習慣の改善と識字率向上における図書室の影響-スリランカにおけるルーム・トゥ・リードの図書室プログラムの探索的研究)"と題された 2019-20 年度の研究で、スリランカのチームによって実施されました。信頼性分析の結果は良好であり、他の国や言語での測定値の文脈化を支援するためのガイダンスの作成に取り組んでいます。今後数年のうちに、この指標をルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムや図書室の規模拡大の取り組みの評価に統合する予定です。

女子教育プログラム

ライフスキル測定の強化

2016年、ルーム・トゥ・リードは、女子教育プログラムを通じて構築しようとしている自信、コミュニケーション、共感などの主要なライフスキルを客観的かつ確実に測定するためのアプローチであるライフスキルアセスメント（LSA）の開発と試験運用を開始しました。これは複雑な課題であり、ライフスキルの信頼性の高い測定方法に対する世界的な需要の高まりを考えると、ルーム・トゥ・リードは測定方法を進化させ、ベストプラクティスについて、より広い分野の人々と協力していきたいと考えています。この目的のために、2020年1月、**ルーム・トゥ・リードとブルッキングス研究所のユニバーサル教育センターは、ライフスキルの測定に取り組んでいる組織**を対象に、これまでの進捗状況、相互の課題、有望な新しいアプローチについて議論するための**2日間の技術ワークショップを開催しました。**

ワークショップには、学界、NGO、多国間組織、ルーム・トゥ・リードの支援者から50名以上のオピニオンリーダーが参加しました。主な議題としては、ツールの信頼性の向上、様々なタイプの妥当性テストへの取り組み、バイアスの低減、政府の教育システムにおける評価のスケールアップなどが挙げられました。ワークショップのノートの全文は[こちらからご覧いただけます（英語）](#)。議論の中から、いくつかのハイレベルな考察をご紹介します。

- スキルがどのように発揮されるかは、地理的、文化的、年齢層によって、また、文脈の中で比較的特権的なグループとそうでないグループの間で異なる可能性があります。母集団や文脈を超えてデータを一般化したり、比較したりする際には注意が必要です。
- 根気強さやセルフコントロールなどのスキル分野は本質的に重複している可能性があり、私達の評価が、概念的に分離できない構成要素を切り離そうとしているのかどうかを疑う必要があります。
- 数学や読解力とは異なり、ライフスキルは単調に（時間の経過とともに低い方から高い方へと一貫して）進行する訳ではありませんが、自信のようなライフスキルの中には、実際には思春期の特定の段階で低下する可能性があることを示唆する証拠があります。このことは、評価のタイミング、比較群を含めること、データの解釈に細心の注意を払うことの重要性を強調しています。
- 最後に、グループはまた、私達が測定しているスキル（*順応性のあるもの*）と特性（*特性であり、しばしば変化が遅いか、不変でさえある*）や気分（*一時的な感情状態*）のどちらを測定しているかについても議論しました。これらの区別は、ライフスキル評価を開発し、テストし、解釈する際に非常に重要となります。

ルーム・トゥ・リード ライフスキルワークショップに参加した組織：

アメリカ研究機関
アサンテアフリカ
貧困アクションのためのイノベーション
ハーバード大学
人口問題協議会
セーブ・ザ・チルドレン
世界銀行
トロワ・リヴィエール・ケベック大学
ユニセフ

統計解析へのアプローチは繰り返しのテーマでした。例えば、クロンバックのアルファ（ α ）を用いた信頼性の推定に関する一般的な慣習は、この統計量は信頼性だけでなく、構成要素の項目数、サンプルサイズ、スコア分布、グループの同質性など、他の様々な要因にも影響を受けるため、過度に単純化されていることが議論されました。信頼性を推定するための他の方法、例えば Guttman lambda-2 は、それほど広く使われてはいませんが、調査する価値があるかもしれないいくつかの利点を提供しています。このグループはまた、探索的因子分析と確認的因子分析の両方をより体系的に機器開発プロセスに統合することを奨励しました。私達は、今後もライフスキル測定を進めていく中で、同様のイベントを連続して開催することを予定しています。

女子教育のスケールアッププロジェクトに学ぶ

ルーム・トゥ・リードの2020～2024年戦略プランに明記されている第一の優先事項は、システムレベルでの統合を促進するためのプログラムを設計することです。女子教育プログラムについては、2018年にイケア財団の支援を受けて、新たなシステムレベルの統合プロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、インドのチャティスガル州とラジャスタン州にある寄宿学校全体でライフスキル教育とメンタリングの拡大に焦点を当てました。このプロジェクトでは、ルーム・トゥ・リードのライフスキルカリキュラムとメンタリングガイドラインに加え、イケアの技術支援の経験を活用して、プログラムを実施する政府機関の教師を訓練し、サポートしました。このプロジェクトは、2019年までに約4万人の中等教育の女子生徒を支援することに成功しました。

この規模拡大プロジェクトの重要性を考慮して、私達は、生徒レベルの成果と、プロジェクトの結果としてのシステムレベルの能力の変化の両方を測定するために、強固な評価戦略を設計しました。生徒レベルの成果については、これまでで最大規模のライフスキル評価を実施しました。これは、96校（州と学校の種類で層別化）の女子生徒1,800人以上を対象とした評価です。この評価には、9つのライフスキル、ジェンダーの態度、性とリプロダクティブ・ヘルス(生殖に関する健康)に関する知識、金融リテラシー、雇用への意欲の測定が含まれていました。以下の表6に、アセスメントの質問の例を示します。

表6 知識・態度・実践項目の例

あなたの地域では、女子の教育を阻む主な障壁にはどのようなものがありますか？

女子教育を充実させるために、保護者が会議やその他の学校活動に参加することは、どれほど重要なことなのでしょう。

月経に関する次の記述のうち、どれに同意しますか？

- 思春期の女の子や出産年齢の女性にとっては正常なプロセスです。
- 月経期間中はスポーツ活動を続けることができます。
- 月経の間は神聖な場所に行ってはいけない
- 月経の間、女の子/女性は孤立してはいけない

学生のベースラインデータは、以下のことを示しています。

- 母親が本を読んでいるのを見たことがあると答えたのは、チャティスガル州の回答者の36%とラジャスタン州の回答者の27%だけである。
- 両州の回答者の約半数（チャティスガル州51%、ラジャスタン州48%）がこの発言に同意していない：“女の子には男の子に触られない権利があります。たとえ男の子の気持ちを傷つけても。”
- チャティスガル州の女子の28%とラジャスタン州の14%が同意しました：“女の子はエンジニアや科学者にはなれません。”それは男性だけの仕事であるべきだからです”

システムレベルでの対策としては、ルーム・トゥ・リードの研修とコーチングのサポートを受けて、プログラムを実施・維持するための政府機関の教師の能力の変化を測定することに主眼を置きました。これを達成するために、パートナーシップを通じて研修とコーチングを受けた374人の教員を対象にベースライン調査を実施しました。

この評価が行われている間に、ワーバーク・ピンカス財団の資金援助を受けて、インドのテランガーナ州でも同様の構造の技術支援プロジェクトを開始しています。今後数年の間に、インドにおけるこれら2つのシステム統合の取り組みから得られた知見は、他の多くの地域で同様のプロジェクトを展開する際に、私達の活動に反映されることでしょう。

男子のジェンダーと男らしさに対する意識の評価

2019年、ルーム・トゥ・リードは、教育を通じた男子のエンゲージメントと、より大きなジェンダー平等実現のための戦略を知らせるために、**カンボジア**で形成的な調査研究を開始しました。2020年には、Promundo および Gender and Development for Cambodia (GADC) と共同で2段階の混合方法による調査を実施しています。2019年5月と6月に第1ラウンドのデータ収集を完了し、2020年の最終四半期に最終ラウンドを収集する予定です。

第1段階では、現行のライフスキル評価を7年生の男子90名に実施し、男子に関連性があり信頼性の高いものとするために、既存の尺度をどのように適応させる必要があるかを明らかにし、男子のライフスキルが同じ環境で女子のライフスキルと比較してどのようになっているかを理解することを目的としました（同じ学年のカンボジアの女子1,199名を対象とした以前の調査を参考にしている）。また、暴力に対する態度、男らしさとタフネス、自給自足、そして男子の人間関係や家族の力学を理解するための質問など、男子に特化した新しい測定項目も追加しました。私達は、Promundo と共同でこれらの項目を開発し、男性のジェンダーに対する態度に関する Promundo の広範なプログラムと測定の経験を基にして、カンボジアの状況に合わせて翻訳し、適応させました。次のページでは、**図6**に、このパイロット・ラウンドの調査から得られたジェンダーに関する態度のデータを示しています。⁹このデータからは、領域をまたいで異なる強調度があるものの、男子も女子もジェンダーに不公平な態度をとっていることがわかります。

男子と女子の間で統計的に有意な差があったのは、2つの態度表明のみです。

「男子が中等教育を修了することは女子よりも重要である」（男子46%、女子36%）、

「女子は年長者の前で自分の意見を言うべきではない」（男子23%、女子38%）

男子は女子に比べて「月経は女の子にとって正常で健康的なものである」と同意する割合が大幅に低く、また「虐待を経験している場合は信頼できる大人に助けを求めるべきである」と同意する割合も大幅に低くなりました。男子と女子の半数以上が「男子は虐待を経験していない、女子だけが経験している」という記述に同意していることから、この第二の知見は、虐待の性質や蔓延についての誤解を反映している可能性があります。また、「男は他人に助けを求めずに、自分の個人的な問題は自分で解決すべきである」という記述に70%以上の男子が同意していることから、羞恥心や被害者意識、男性は自給自足すべきだという意識も反映している可能性があります。

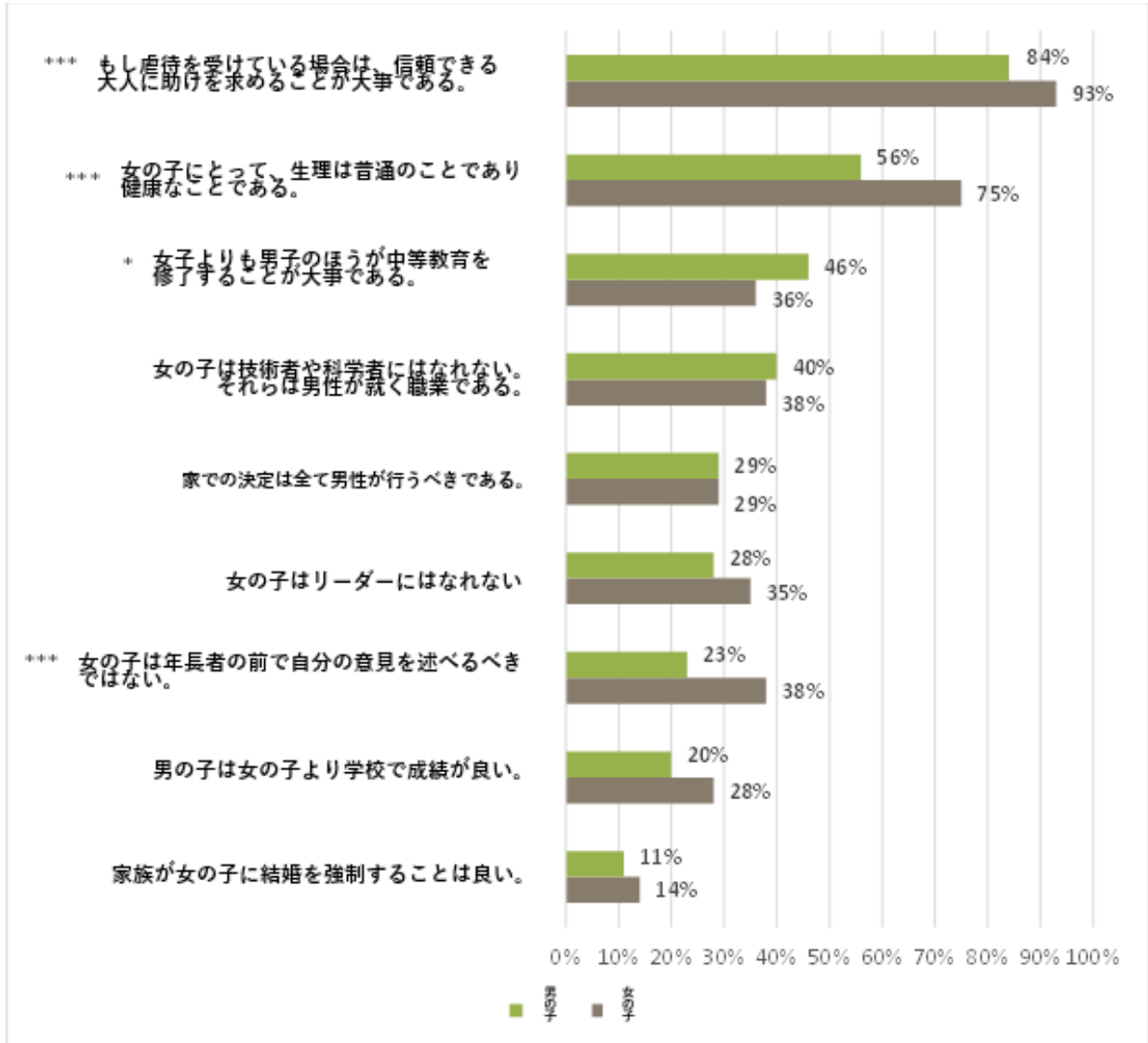
調査に加えて、男子、女子、男女の保護者を対象としたフォーカスグループ・ディスカッションを試験的に実施しました。第1回目の試験的な検討を基に、話し合いを強化するために主要な分野を改善しました。第2回目の実地試験では、プログラムと測定の設計に情報を提供するために、そこで起きているジェンダーの力学をより深く理解することができました。フォーカスグループでの議論の結果、抽象的には男女ともにジェンダー平等の概念を支持しているが、具体的な問題について質問されると、すべてのグループの回答者が男女の役割を自然で望ましいものと考えていることが明らかになりました。男女ともに、男性が家庭内の最終的な意思決定者となるべきであることに同意しており、これは男性が主な稼ぎ頭であり、家族の長であるからであると説明しています。

キャリア、結婚、学校教育の分野でも、一般的な原則と具体的な行動の間には、同様のパターンの断絶が見られました。男女ともに、大人が子どもに対して性差別的な見方をすることがありました。ある男性は、女の子が

⁹これらの調査結果は、試験的なサンプル数のため、より広範な人口を代表するものではないことに注意してください。今後の調査では、より大きなサンプルが含まれる予定です。

「男の子のように振る舞わないことが重要だ、例えば、バイクでスピードを出して運転すること」と言い、ある母親は、自分の息子が「女の子のように振る舞う」と恥ずかしがり屋で大人しくしていることを後悔し、「本当の男のように強くなってほしい」と述べています。

図6：カンボジアにおけるジェンダーの知識と態度に関する記述との一致



*0.10 レベルでの有意差、0.01 レベルでの有意差

第2段階（2020年後半に予定）では、9年生の男子生徒100人を対象に調査を行い、性と生殖に関する健康やその他のジェンダーに関する態度についての質問を含む調査を拡大していきます。また、フォーカスグループ・ディスカッションと個人インタビューを追加で実施し、カンボジアにおけるジェンダー平等の推進における男子生徒の潜在的な役割についての理解をさらに深める予定です。

リーダーシップサポートとセクターの関与

ルーム・トゥ・リードは、幅広い研究発表や **RM&E in-progress シリーズ**の立ち上げを行い、この分野における RM&E のリーダーシップを拡大し続けました。その中には、ブルッキングス研究所との協力によるライフスキル評価に関する 2 日間の対面テクニカルワークショップ（上記のセクションに記載）や、RTI インターナショナルとの協力による学習成果の平等に関するウェビナーなどが含まれており、私達の研究や他の組織の研究を取り上げたイベントをいくつか開催しました。

2019 年と 2020 年には、インドにおけるルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムの有効性に関する発表、プログラム実施の忠実性と成果に関する多国間分析、指導時間調査から得られた知見など、多数のルーム・トゥ・リードの研究発表が**北米比較・国際教育学会（CIES）**に受理されました。

また、新型コロナウイルス感染の危機に関連して、緊急時の教育支援のためのネットワーク機関（INEE）が主催するバーチャルワークショップの開催にも協力しました。また、SurveyCTO が主催したウェビナーでは、読解力の評価に関する研究成果を発表しました。

エビデンスを政策と行動に変換することは、ルーム・トゥ・リードの RM&E 活動の主要な目標です。ルワンダでは、政府関係者を含む様々なステークホルダーを対象に、指導時間とリモートラジオレッスンに焦点を当てた 2 つの学習ワークショップを開催し、実施しました。これらの学習ワークショップの結果、多くの具体的な政策改善が確認され、実施されました。

また、グローバル RM&E チームは、*Basic Education Coalition RM&E* ワーキンググループ、*Soft Skills Measurement* ワーキンググループ、*Scaling Up Community of Practice RM&E* ワーキンググループなど、多くの**ワーキンググループに参加しています**。最近では、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の Science of Teaching 諮問委員会に招かれ、開発途上国における基礎的な学習成果を向上させるためのエビデンスを構築・統合するイニシアティブを監督することになりました。

RM&E in-progress

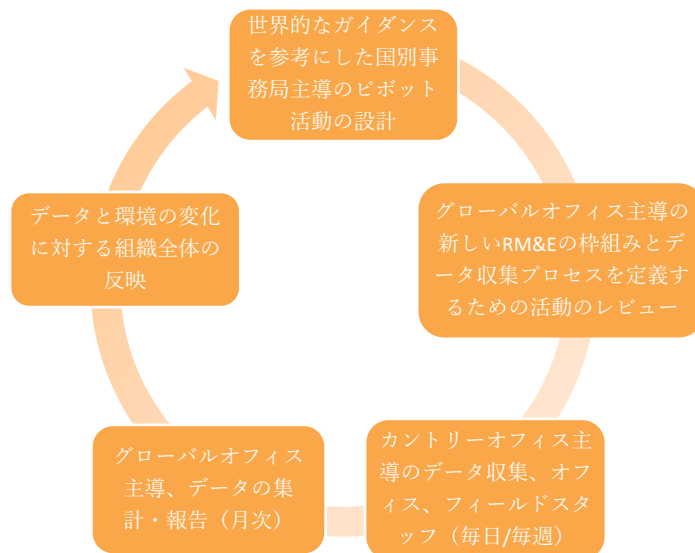
2020 年、ルーム・トゥ・リードは、国際的な教育機関が直面している研究、方法論、測定の課題の範囲に焦点を当てた **RM&E の進行中のシリーズ**を開始しました。透明性、ピアベースの批評、綿密な技術的議論に重点を置いたこのシリーズが、私達の集合的な仕事から学び、改善するためのユニークな機会となることを期待しています。

COVID-19 禍での RM&E

COVID-19 のパンデミックにより、世界中で学校が閉鎖され、パンデミックの最盛期には 15 億¹⁰人以上の子どもの学習が中断されました。ルーム・トゥ・リードは、危機の最中に子ども達と青少年の教育を支援するために、ルーム・トゥ・リードのプログラムを迅速に転換し、支援国全体でまったく新しい活動を実施しました（図 7）。プログラムの活動を測定し、そこから学ぶための既存の戦略やプロセスは、活動の変化に伴い陳腐化していたため、私達は危機に対応した新しい RM&E 戦略と枠組みを迅速に設計しました。

図 7：改訂された RM&E 戦略のプロセス

このプロセスを通じて、私達は効率性と適時性を含むいくつかの重要な原則を強調しました。**効率性が最優先**されたのは、プログラムの再設計、遠隔配信のための戦略の策定、新しいパートナーシップの特定、パンデミックの一般的なストレスへの対応にチームが追われていたからです。また、**各国の状況が急速に変化していることを考えると、適時性が非常に重要である**こともわかっていたため、国レベルのデータは週単位で、グローバルレベルのデータは月単位でまとめることにしました。



重要な課題は、オフィスが閉鎖され、職員がそれぞれの地域に戻り、様々な技術

やアクセスが非常に限られている中で、いかにしてデータを収集・集計するかということでした。私達は創造性を発揮し、迅速に行動しなければなりません。女子教育プログラムでは、女子のリスク要因に関するデータが必要であることは分かっていますが、指導のための時間が限られており、貴重なものであることも分かっています。そこで、リスク調査の質問を個別の遠隔メンタリング・セッションに統合し、メンタリングを行うソーシャルモビライザーに携帯電話で非常に簡単なアンケートに記入してもらい、セッションの情報とリスク調査の回答を記録しました。これを開発し、数週間以内に 8 カ国で展開しましたが、2020 年 4 月以降、**33,000 人以上の少女**について貴重なデータが得られ、このデータをもとに私達はこの脆弱な集団に対する取り組みに焦点を当て、より広範な支援を提唱しています。2020 年 7 月の時点で、私達のチームは、8 カ国で 17 万 **3,000 人**以上の少女達に**個別の遠隔指導セッションを実施**しました。

COVID-19 への対応の初期段階では、環境、現地での活動、リーチを理解することに重点を置いていました。これらのデータは、当面の活動の情報を提供し、プログラムの設計を進化させるための基礎を提供し、政府やパートナーとの議論をサポートするために使用されています。私達が重要なデータを重点的に収集することができたのは、現地職員が学校の指導者、教師、保護者、生徒、政府機関と長期にわたって信頼関係を築いてきたからです。また、既存の強力なデータシステムとプログラム参加者に関する情報があったため、学校閉鎖中のプログラム参加者の追跡調査や支援にも利用できました。

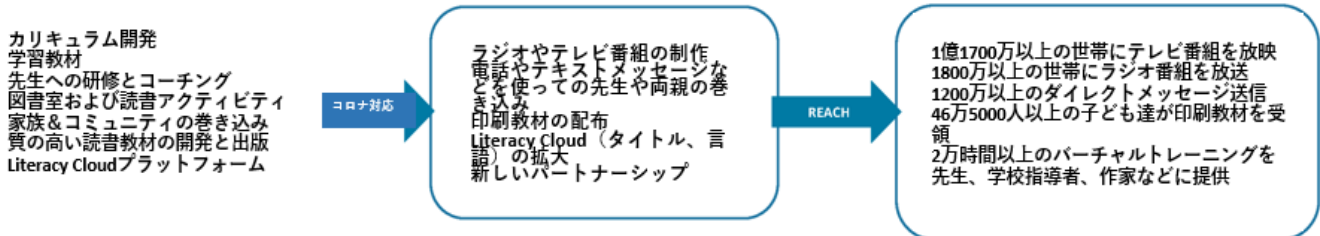
図 8 は、パンデミック前とパンデミック後のプログラムの要素を示し、2020 年 9 月までの指標報告に焦点を当てています。

¹⁰ユニセフ（2020 年）。新型コロナウイルス感染症。子どもたちは休校中も学習を続けることができるのか？ 100 カ国のデータを用いた遠隔学習政策の潜在的な到達範囲に関する世界的な分析。

図 8: COVID-19 プログラムのピボット

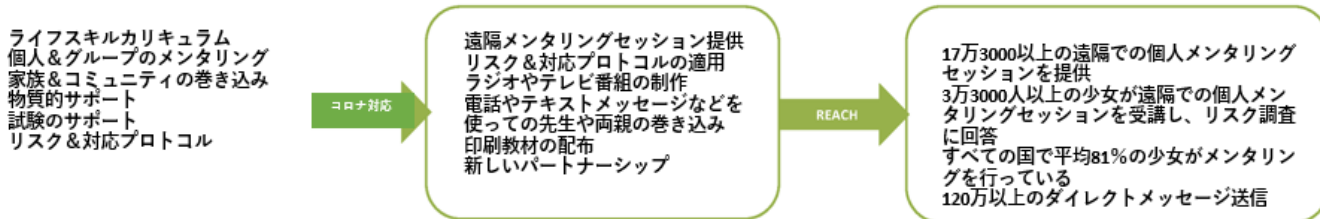
識字教育プログラム

読書力の向上、読書習慣の形成、質の高い識字教育の提供



女子教育プログラム

ライフスキルの向上、中途退学の低下、生活の向上



Data through September 2020

パンデミックの影響を受けて、私たちは第2段階の RM&E 戦略に移行していますが、ピボットプログラムの有効性をより深く理解することに重点を置いています。例えば、ネパールのチームは最近、学校閉鎖中の識字率向上プログラムと女子教育プログラムの目標を達成するために実施したラジオ番組やその他の遠隔支援への参加とその質に関する調査を完了しました。小学1年生の子どもを持つ300人以上の保護者と、思春期の女子350人に電話インタビューを行いました。**74%の保護者が、自分の子どもがルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムのラジオ番組をよく聞いていると報告し、インタビューを受けた女子の75%以上が、ルーム・トゥ・リードが提供する個別の遠隔メンタリングセッションが役に立ったと感じていると回答しました。**ネパールでは、インターネットアクセスの低さ、自宅学習に対する家族のサポートが限られていること、厳しい経済状況などの環境上の課題があることを考えると、これらの結果は特に心強いものとなります。

現在、私達は、以下の方法に関する研究を含む学習アジェンダを開発しています。

- 遠隔学習介入の効果を向上させます。
- 仮想学習、自宅学習、教室学習を活用した「ブレンド型」学習戦略を作成します。
- 政府のパートナーが自国の「学びのあり方」理解するためのサポートします。
- 学校ベースの学習への回帰をナビゲートします。

寄付者、パートナー、関係者の皆様の寛大なご支援のおかげで、ルーム・トゥ・リードは世界中の子ども達に教育の機会を継続的に提供することができました。皆様のご支援がなければ、生徒達は学習の喪失に苦しみ、二度と学校に戻らないリスクがありました。これまでの協力的な成果を誇りに思い、2021年も引き続き RM&E イニシアチブを適応させ、拡大していくことを楽しみにしています。